




論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

①・乙	氏名	園山 里江	
学位論文名	Relationship between Oral Bacterial Count and Postoperative Complications among Patients with Cardiovascular Disease Treated by Surgery: A Retrospective Cohort Study		
学位論文審査委員	主査	林 健太郎	
	副査	日高 匡章	
	副査	矢野 彰三	

論文審査の結果の要旨

近年、多職種連携による治療が推奨され、周術期口腔機能管理（口腔ケア）において、歯科医師・歯科衛生士は重要な役割を果たしている。2012年に周術期口腔機能管理が保険適応診療として認可されて以来、医療においてその重要性和認知度が増している。当初は、がん治療の支持療法としての位置付けで開始されたが、その後、心臓血管疾患や脳血管疾患患者等においても口腔ケアの有効性が報告され、適応範囲が拡大されてきた。しかし、従来の研究では、口腔ケアの効果判定に関する指標が間接的なアウトカムで評価され、直接的な口腔細菌数と術後合併症との関連性については検討がなされてこなかった。そこで本申請者らは、心臓血管疾患患者における口腔細菌数と術後合併症との関連性を検証することを目的に研究を実施した。研究デザインは後方視的観察研究とし、2012年4月から2018年12月までの間に、香川県立中央病院歯科口腔外科にて口腔ケア管理を目的に受診した心臓血管疾患手術予定患者を対象として調査を実施した。患者は、外来受診時、手術前日、退院前日において、DEPIM法による口腔内細菌カウンターを用いて口腔細菌数を測定された。すべての患者関連背景データは電子診療録より収集された。結果において、470例の全患者のうち、術後合併症発生率は10.4%であった。口腔細菌数は、外来受診時から手術前日、退院前日にかけて経時的に有意な低下を示した。傾向スコア（逆数重み付け法）による多変量解析では、退院前日の口腔細菌数と術後合併症との間に有意な関連が示された（オッズ比：1.26）。したがって、患者セルフケア管理、歯科医師・歯科衛生士による専門的口腔ケア、多職種連携による口腔ケア管理により口腔細菌数を低下および維持できること、周術期における口腔細菌数が術後合併症のリスク因子であり、周術期口腔ケア管理が、心臓血管疾患手術患者の術後合併症低減に寄与し得る可能性を示唆した。本研究は、他の外科系疾患患者においても、周術期口腔機能管理（口腔ケア）による全身合併症発生の低減効果の可能性を示した優れた成果であり、今後のさらなる発展性を有する。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は新たな口腔内細菌カウンターを用いて心臓血管外科周術期における口腔ケアの有効性を評価し、口腔ケアにて合併症が減少する傾向があることを示した。近年、様々な疾患に口腔内の細菌感染や不衛生が関与していることが明らかになり、口腔ケアの重要性が増しており、本研究は今後の発展が期待される。関連知識も豊富で質疑応答も明確であり、学位授与に値する。（主査 林 健太郎）

申請者は、周術期口腔管理（口腔ケア）が心臓血管外科手術後の合併症軽減に寄与していることを明らかにした。さらに術前口腔ケアにより口腔内の細菌数が減少したことを証明し、退院前日の口腔内の細菌数が減少した事が術後合併症との有意な関連を証明した。これらの研究内容を効果的にプレゼンテーションし、基礎的な事から臨床的な質問まで、適切に対応しており十分な関連知識を有すると判断された。よって、医学博士の学位授与に値すると判断した。（副査 日高 匡章）

申請者は、周術期口腔ケア管理の重要性に着目し、後方視的観察研究を実施した。心臓血管疾患手術予定患者を対象に多職種連携による口腔ケア管理を実施した場合、有意に口腔細菌数の減少を認め、退院前日の口腔細菌数と術後合併症発症との間に有意な関連があることを統計学的に示した。関連領域の学識、考察力も充分であり、医学博士の学位授与に値すると判断した。（副査 矢野 彰三）

（備考）要旨は、それぞれ400字程度とする。